

主日礼拝

2026年3月29日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前奏 『ダビデの子、ホサナ(讚美歌 307番)』 G. J. フォクラー
棕櫚の葉による入堂行進 教会学校

招詞 ヨハネによる福音書12章15節
賛美歌 307

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 ゼカリヤ書9章9～10節 (旧約1465頁)
マルコによる福音書15章21～41節 (新約 94頁)

子ども説教
交読詩編 詩編24編1～10節 (28頁)
賛美歌 特別曲「罪からの救いを」
説教 「ゴルゴタで」 八木浩史牧師

祈禱
賛美歌 II-185

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献金 献金当番
祈禱
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌栄 27
祝福
報告
後奏 『強き王なる主をほめまつれ』 J. C. H. リンク

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

「ゴルゴタで」

『ゼカリヤ書』は、バビロン捕囚後に示された神からの幻について記されています。「第二ゼカリヤ」と呼ばれる9章以下の内容は、終末論的傾向が強く、以前のようなエルサレム神殿の再建やイスラエル国家の回復を示すものではありません。もっと新しくされた神殿や国づくりの幻が与えられるのです。その幸いは、神から遣わされる王(メシア)によってもたらされます。この王は神に忠実で、軍隊や武器を排除して治める王であり、その支配は地の果てにまで至ります。この王がエルサレムに来る時には、「雌ろばの子、子ろばに乗って」来るのです。「子ろば」は戦争を行わない平和の王の象徴です。この王が来るとき、エルサレムの民は喜び叫んで歓迎することになるとの預言が告げられます。主イエスは、ゼカリヤ書の預言のとおり「子ろば」に乗ってエルサレムに入られました。人々は喜び叫んで主イエスを歓迎するのですが、その週の内に主イエスは捕縛され、十字架に架けられて処刑されるのです。

『マルコによる福音書』では、「ゴルゴタ」で十字架にかけられて苦しめる主イエスの様子を報告しています。頭には茨の冠が被せられ、罪状書きには「ユダヤ人の王」と書かれていました。肉体の痛みと人々の嘲りの中で、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれ、死んで行かれます。それは全ての人の罪を背負った死でした。この十字架の主イエス・キリストに、神の私たちへの愛と救いと平和が込められていたのです。